

2017年度 JAMS 会員総会議事録

事務局

2017年10月21日(土)、獨協大学において2017年度日本マレーシア学会(JAMS)の会員総会が行われた。

【議長選出】

西芳実会員が議長に選出された。

【報告・審議事項】

担当の各委員から活動内容に関する報告が行われるとともに、各委員による提案について審議が行われた。

1. 運営委員長

篠崎香織運営委員長より、以下の2件について報告がなされた。

(1)2017年3月24日に日本学術会議の協力学術研究団体として指定を受けた。

(2)次期(2018-19年度)会長を選出するにあたり、会長選挙規程第2条第2項に基づき、2017年5月23日に鈴木陽一会員を選挙管理委員に任命した。

2. 事務局

総務

山本博之委員より、JAMSが参加している学会等の連合体に関して以下の報告があった。

(1)地域研究コンソーシアム(JCAS)

JAMSは幹事組織としてJCASの運営を担っており、金子芳樹会長が理事としてJCASに参加している。JCASは、次世代支援などの公募プログラムや地域研究コンソーシアム賞(JCAS賞)の顕彰などを行っている。今年度の総会は2017年10月28日に東北大学川内キャンパスで行われる。各種公募を含むJCASの活動は、主要なものは事務局から案内するが、

各会員にはJCASホームページまたはJCASメールマガジンを参照していただきたい。

(2)地域研究学会連絡協議会(JCASA)

JCASAの加盟学会が支払う会費は2年間で5000円。主な活動は総会のみで、一般参加の公開イベントはない。今年度の総会は2017年12月10日に開催予定。

ウェブサイト

山本博之委員より以下の報告がなされた。『The Daily NNA マレーシア版』に毎月掲載されているコラム記事「知識探訪」の記事再録をはじめ、ウェブサイトを通じて学会の活動を広報している。

会計

光成歩委員より、配布資料をもとに2017年度の会計中間報告が行われた(この項、篠崎運営委員長代読)。

【審議事項1】2016年度の会計報告について

光成委員より配布資料に基づいて2016年度の会計報告がなされ、宮崎恒二監査より監査結果が報告され、いずれも承認された。

会員情報

光成歩委員より以下の報告がなされた(篠崎運営委員長代読)。

(1)会員数

2017年10月13日の時点で会員数は200名。前年度の会員総会時から2名減。

(2)権利の停止

38名が権利の停止の対象者となっている。

(3)会員名簿

2017年12月後半に会員名簿を発行予定。

3.学会誌編集委員会

祖田編集長より以下の報告がなされた。

(1)会誌『マレーシア研究』の第6号は編集作業が遅れており、2017年10月30日に発行予定。

(2)第7号は2018年3月の発行を目指して作業が進められている。

4.地区担当

関東地区

舛谷鋭会員より以下の2件の報告がなされた。

(1)関東地区例会を立教大学池袋キャンパスで開催している。前回大会以降、2016年度に6回、2017年度に6回実施し、2017年度内に少なくともさらに2回実施する予定。会員・非会員を問わず広く発表、コメントをお願いし、会員の獲得、大会への参加を促している。

(2)関東におけるマレーシア関係者の情報交換・集いの場になりつつあるが、会誌への投稿につなげることが引き続きの課題である。

関西地区

多和田裕司委員より、以下の2件の報告がなされた（篠崎運営委員長代読）。

(1)2017年度の活動としては、年度内に一度地区研究会を開催すべく、日程、発表者などについて調整中である。

(2)関西地区の研究会での発表希望者があれば、会場その他の準備は運営委員でおこなうので、遠慮なくお申し出頂きたい。日取りなどは希望者と相談の上で決定したい。

5.研究大会

山本博之委員より2017年度研究大会の開催について以下の件の報告がなされた。

(1)今年度の研究大会は2017年10月21日(土)、22日(日)に獨協大学で実施した。(2)個別研究報告とポスター・セッション企画をし、発表者を募集した。個別研究報告では2件を採択した。ポスター・セッションの応募はなかった。

(3)大会1日目にドキュメンタリー映画セッションを企画した。大会2日目にシンポジウム「忘却されざる記憶—60年後からみるマラヤ建国」を企画した。

6.連携研究会

連携研究会の活動について以下のように報告があった。

(1)クアラルンプール地区研究会

特に報告する活動は行っていない。

(2)「ジャウィ文献と社会」研究会（坪井）

坪井祐司委員より以下の報告がなされた。シンガポールのMalay Heritage Centre (MHC)の企画展示「Mereka Utusan」への協力を行った。それに関連して、2017年2月18日にMHCにて公開セミナー「Age of Qalam」を開催し、山本博之と坪井祐司が講演を行った。

(3)マレーシア映画文化研究会（篠崎）

篠崎運営委員長より以下の報告がなされた。混成アジア映画研究会の構成ユニットとして活動しており、今年度のJAMS研究大会1日目のドキュメンタリー映画セッションを共催する。

7.社会連携

篠崎運営委員長より、以下の2件について報告がなされた。

(1)マレーシアで発行されている邦字紙『NNAマレーシア』に本学会の会員がコラム「知識探訪」を毎月掲載している。執筆者は会員の自薦による。積極的な応募を期待する。

(2)賛助会員であるマレーシア国立博物館日本語ボランティアガイド・グループより、JAMSに対して、同グループを対象としたマレーシア事情研修の講師を紹介するよう依頼があった。会員メーリングリストを通じて募集し、3名の会員が講師としてレクチャーを行った。

8.会長選挙

鈴木陽一選挙管理委員より、会長選挙に関して以下の報告がなされた。

2017年8月10日、「会長候補の推薦について(お願い)」と題する文書を「日本マレーシア学会2018・2019年度会長候補推薦・被推薦資格者名簿」とともに会員メーリングリストにて公示し、推薦資格のある会員に9月22日までに次期会長を推薦するよう依頼した。推薦資格者・被推薦資格者の決定にあたっては、7月12日に会員メーリングにて発出した通知に従い、8月4日の会費の納入状況によって決定した。期日までに会長候補の推薦がなかったため、同日会員メーリングリストにてその旨を公示するとともに、推薦期日を9月28日まで延長する旨を公示した。期日までに会長候補者の推薦はなかったため、投票は実施しなかった。

【審議事項2】会長選挙について

篠崎運営委員長より、会長候補者の推薦がなかったことを受けて、JAMS会長選挙の前例に従って現会長を再任することが提案された。審議の結果、この提案が承認され、金子芳樹会員を次期会長とすることが承認された。任期は2018年4月1日より2020年3月31日までの2年間。

9. 次期(2018・2019年度)の運営体制について

【審議事項3】次期運営体制について

金子次期会長より篠崎香織会員が次期運営

委員長に指名され、篠崎会員より次期運営委員が以下のように紹介され、いずれも承認された。

・事務局

総務 山本博之

会計 光成歩

・会誌編集委員会

編集委員長 祖田亮次

【審議事項4】運営委員の追加任命について

篠崎次期運営委員長より、次期運営委員を追加で任命する場合は、会員メーリングリストを通じて承認の手続きを取ることが提案され、審議ののち承認された。

10.2018年度の予算案について

【審議事項5】2018年度の予算案について

光成次期会計委員より、配布資料にもとづき2018年度予算案が提示され、承認された。

11.2018年度の研究大会について

【審議事項6】2018年度の研究大会について

篠崎次期運営委員長より、今後のJAMSの活動のあり方について運営委員を中心に検討し、2018年度の研究大会についてはその検討結果を踏まえて2018年4月以降の早い時期に場所、時期、形態を運営委員会で決定することが提案され、承認された。

以上